

いわゆる「福祉用具法」の制定から5年が経過した。果たしてこの間にどんな福祉用具が開発されたのか？ 本特集は、このような問いに応えるために企画したものである。障害分野別に、最近開発されたものか話題になっている福祉用具で、すでに実用化されているものを紹介し、さらに福祉用具の開発・普及に関して、現状の問題点や今後の展望について解説していただいた。

■ **画期的な携帯型読書機「プレクストーク」の開発** この読書機は、日本企業（プレクスター（株））が昨年10月に世界で同時発売したもので、「デージー（DAISY）」というデジタル録音図書国際標準規格に準拠して製作されている。「DAISY」は Digital Audio-based Information System の略で、1997年に確定されたが、その決定に際してわが国が重要な役割を果たしており、世界中で大きな評価を受けている。そして現在では、DAISYをインターネットのマルチメディアに対応する第2世代に進化させるプロジェクトが生まれ、種々の開発に取り組んでいる。（寺島 彰氏，807頁）

■ **聴覚障害は情報障害である！** 通信，生活，娯楽，コミュニケーション機器などについて、それぞれの最新の情報を紹介しているが、これらの情報機器の多くは、聴覚障害者の利便を考えて製作されたものではないため不便な点が多いと主張している。また、聴覚障害者にとっては補聴器と日常生活用具はいわば車の両輪であり、両者とも必要不可欠なものであることを強調、聴覚障害者用生活用具の開発の課題と展望について述べている。（岩淵紀雄氏，811頁）

■ **肢体障害者のための最新の機器** 最近開発された福祉用具として、①モジュラー型車いす（1998）、②四肢麻痺者用入力装置（年内に市販予定）、③移乗機能をもった起立補助機（1999）を紹介している。そのうえで、福祉用具を実用化するための条件、開発の現状と問題点を解説。今後の展望については、既存の福祉用具や関係する報告書、研究者、開発者に関する情報などのデータベースをまとめること、さらに、福祉用具の選び方・使い方に関する手引き書を作成することの重要性を強く訴えている。（松尾清美氏，815頁）

■ **「わかる」ということの意味！** 認知障害のある人々に対する支援機器として、①キャッシュ・レジスター、②タイマー（商品名：タイムログ）、③絵で温度を表す温度計などを紹介している。わが国では、この分野の取り組みが大変遅れているため、現在、テクノエイド協会から研究助成を受け、共同開発プロジェクトが進行中である。その中で、コミュニケーション・プログラム、マネー・トレーニング・プログラム、生活自己管理プログラムなどの開発を進めており、今後が期待される。（畠山卓朗氏，827頁）

■ **今後、福祉用具の供給システムはどうなるか？** 公的介護保険が導入された後も、治療用具（治療用装具や仮義肢など）と補助具については現行どおりの供給システムで給付される。しかし、日常生活用具については、一定年齢を超えた者（65歳以上）はすべて高齢者に対する福祉用具として介護保険に移行することが予想され、どんな福祉用具を使用するかはケアプランの中で決定されることになる。そこでは福祉用具のガイドブックとして、テクノエイド協会の開発したTAISデータベースが大きな役割を果たすものと思われる。（木村哲彦氏ら，831頁）